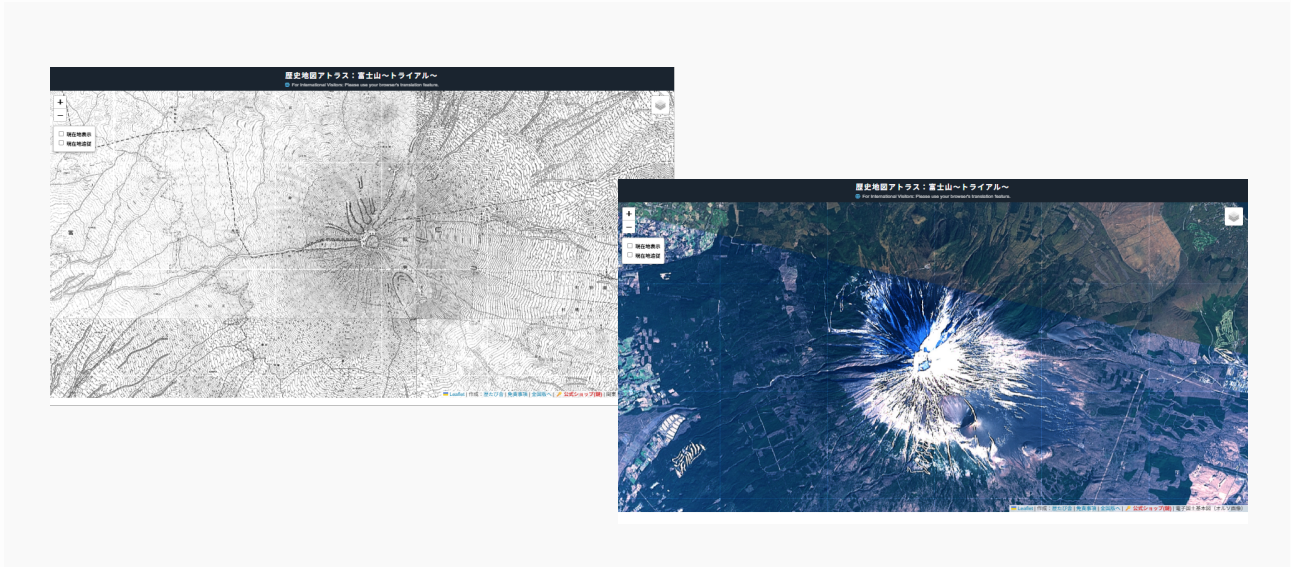


歴たび舎

富士山

時を刻む地図、信仰の記憶

重なり合う時：古地図と現代



皆様の目の前に広がるのは、単なる地図ではありません。明治時代の地誌を伝える「**古地図**」と、現代の最新技術による「**電子国土基本図（オルソ画像）**」が重なり合う、時空の交差点です。

100年以上の時の流れが、地図の線となって今に伝えられています。厳しい自然環境による火口縁のわずかな崩落や、登山道の変遷。地図を重ね合わせることで、富士山が静かに刻んできた歴史が浮き彫りになります。

宝永火口：劇変の記憶



南東斜面に大きく口を開けた「**宝永火口**」。これは1707年、江戸時代最大の噴火によって形成され、富士山の山容を劇的に変えてしまいました。

かつて「旅人（富士講）」たちが、信仰の証として、この険しい道を一步一步踏みしめて登った記憶。地学的驚異としての表情と、信仰の対象としての表情。その多様な姿こそが、富士山が後世に語り継ぐ真実の記録なのです。